

# 飯田市立病院改革プランの点検評価

平成 24 年 8 月 24 日

飯田市立病院

## 1 はじめに

「飯田市立病院改革プラン」に基づき、3年以内の黒字化を最大の目標に取り組んできたところ、計画期間の平成 21 年度～平成 23 年度において、いずれの年度も経常黒字を達成することができました。平成 22 年度までの点検評価については、平成 22 年 5 月、平成 23 年 8 月に市議会全員協議会にて報告をし、ホームページ等でも公表しています。

この改革プランは、平成 19 年 12 月 24 日に国から示された「公立病院改革ガイドライン」に基づき、プランの作成及び点検評価を行ってきたものです。

今回の点検評価は改革プランで設定した収支計画の最終年度にあたり、平成 23 年度までの実績等を公表します。改革プランの点検評価は今回で完了となりますが、今後とも、将来を見据え、当地域に必要なかつ良質な医療を確保するとともに、安定した経営基盤を確立するため、更なる経営改善の取組と医療の質向上に努めてまいります。

## 2 平成 23 年度決算状況

平成 23 年度の決算は、入院患者数は前年度に比べて若干減少したものの、救急患者や症状の重い患者を積極的に受け入れ、高度な手術を数多く手がけたことなどによる新規患者数及び診療単価の増により、医業収益が増加し、経常利益 3 億 9 千 4 百万円と平成 21 年度以降 3 年連続の黒字となりました。

市立病院改革プランで目標としていた経常収支の黒字を、平成 23 年度においても達成することが出来ました。また、当初定めた財務に係わる数値目標や医療機能に係わる数値目標についても達成することができています。

当地域にとって必要な救急医療や産科医療、高度医療、がん医療などに積極的に取り組み、また患者中心の医療の実践や医療体制の充実を図ってきたことが、当院の信頼性や新規患者数の増加につながり収益の改善に結びついたものと考えます。

平成 23 年度の決算状況について概要を説明します。

入院収益及び外来収益の合計額は約 102 億 5 千万円となり、前年度より約 1 億 3 千万円の増額となりました。入院患者数は 1 日平均 335 人で前年度の 1 日平均 343 人を 8 人下回ったものの、新たに入院した実患者数は、10,165 人で前年度実患者数 9,712 人を 453 人上回り、年間通して目標の病床利用率を確保することができました。

入院・外来の診療単価は入院が約 3.0%、外来が約 3.8%増加しました。

医業費用については、第 3 次整備事業を見据え診療体制を充実するため、医師や看護師、診療技術職員等の増員に伴い人件費が増加し、前年比 2.3%増となりました。

医業外費用は、企業債支払利息は減少したものの、繰延勘定償却費の増加などにより、前年比 1.2%増となりました。

また、退職給与引当金 1 億 8 百万円を引当てたほか、一般会計繰入金について地方交付税の繰出基準に対して繰入額を減額しました。

その結果、経常利益、純利益ともに 3 億 9 千 4 百万円となり、改革プランの収支計画を上回りました。

#### 【財務に係わる数値目標】

項目	目標値	20年度	21年度	22年度	23年度
① 医業収支比率	97%以上	97.4%	102.4%	102.9%	102.2%
② 経常収支比率	100%を23年度までに達成	98.7%	103.2%	104.6%	103.5%
③ 職員給与費対医業収益比率	55%以下	53.1%	52.2%	51.5%	52.9%
④ 年間資金収支	21年度以降プラス	プラス	プラス	プラス	プラス
⑤ 病床利用率	87%以上	84.4%	89.9%	90.8%	89.1%

#### 【医療機能に係わる数値目標】

項目	目標値	20年度	21年度	22年度	23年度
① 入院患者数	122,200人	116,541人	124,462人	125,147人	122,445人

### 3 改革プランの総括

#### (1) 収支計画について

平成 21 年度から 3 年間黒字となり、「財務に関わる収支目標」及び「医療機能に関わる数値目標」について目標を達成しました。今後も、継続的に健全経営を進める一方、当地域にとって必要な救急医療や産科医療、高度医療、がん医療などに積極的に取組み、また、患者中心の医療の実践や医療体制の充実に努めます。

#### (2) 再編・ネットワーク化について

飯田市立病院、飯田病院、輝山会記念病院、健和会病院、瀬口脳神経外科病院に地域連携サーバーを設置し、同意を得た患者さんの診療情報を転院先の病院や診療所等で閲覧・共有化できる「飯田下伊那診療情報連携システム [ism-Link]」を構築し、本格的連携運用を開始しました。また、5 大がん（胃がん・大腸がん・乳がん・肝がん・肺がん）及び脳卒中の地域内連携パス（診療計画書）による病病連携や病診連携を実施しました。

上記連携システムや地域内連携パスを活用しつつ、地域の急性期医療を担う病院として、今後とも機能を強化していきます。

#### (3) 経営形態の見直しについて

当院は、地方公営企業法の一部適用により運営しています。一般的に、地方公営企業の全部適用や地方独立行政法人により経営責任の明確化と経営の自由度が増し、経営改善が進むと言われていますが、当院の現在の経営形態とそれを変更した場合の期待できる効果について比較・評価することは、現状においては非常に難しいと考えられます。

また、県下の状況は、公営企業法の全部適用に移行した病院や、地方独立行政法人となった県立病院などのように経営形態を変更した病院もありますが、果たしてそのことによる効果があったのか、直ちに判断することは困難です。

当院としては、社会情勢の変化や当院の果たすべき役割を見据え、現状の経営形態を維持しながら、必要に応じていずれの経営形態が適しているか検討します。

### 4 その他

当医療圏においては、以前から、医師会や包括医療協議会が中心となって地域内の連携を進めてきた実績があります。休日夜間急患診療所の運営や在宅当番医制度、病院群輪番制、救命救急センターにおける役割分担や連携、産科問題懇談会を中心としたお産を守る取組、大規模災害医療救護体制の整備、住民啓発活動といった先進的な取組を行ってきています。今後も引き続き、病診連携や病病連携、関係機関との連携を一層進めていきたいと考えます。

(別紙1)

団体名 (病院名)	飯田市立病院
--------------	--------

## 1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	23年度	
						計画	実績
収 入	1. 医業収益 a	8,629	8,713	10,011	10,776	9,346	10,947
	(1) 料 金 収 入	8,017	8,047	9,355	10,117	8,701	10,251
	(2) そ の 他	612	666	656	659	645	696
	うち他会計負担金	201	253	222	229	235	239
	2. 医業外収益	808	922	848	771	820	740
	(1) 他会計負担金・補助金	711	821	745	637	716	616
	(2) 国(県)補助金	40	50	51	63	50	65
	(3) そ の 他	57	51	52	71	54	59
	経常収益(A)	9,437	9,635	10,859	11,547	10,166	11,687
	支 出	1. 医業費用 b	8,781	8,949	9,773	10,471	9,585
(1) 職員給与と費用 c		4,510	4,628	5,229	5,549	5,118	5,788
(2) 材 料 費		2,139	2,012	2,307	2,406	2,218	2,478
(3) 経 費		1,307	1,483	1,492	1,698	1,279	1,603
(4) 減価償却費		778	762	691	739	697	770
(5) そ の 他		47	64	54	79	273	77
2. 医業外費用		904	816	751	570	556	577
(1) 支払利息		440	411	332	156	203	144
(2) そ の 他		464	405	419	414	353	433
経常費用(B)		9,685	9,765	10,524	11,041	10,141	11,293
経常損益(A)-(B)(C)	-248	-130	335	506	25	394	
特 別 損 益	1. 特別利益(D)						
	2. 特別損失(E)	1,073			119		
	特別損益(D)-(E)(F)	-1,073			-119		
純 損 益 (C)+(F)	-1,321	-130	335	387	25	394	
累 積 欠 損 金 (G)	3,318	2,198	1,863	1,477	2,433	1,083	
不 良 債 務	流動資産(ア)	3,258	3,295	3,969	4,953	3,618	6,082
	流動負債(イ)	718	700	617	653	764	931
	うち一時借入金						
	翌年度繰越財源(ウ)						
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(エ)						
不良債務差引 [(イ)-(エ)]-[(ア)-(ウ)](オ)	-2,540	-2,595	-3,352	-4,300	-2,854	-5,151	
単年度資金不足額(※)	102	-55	-757	-948	-151	-851	
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	97.4	98.7	103.2	104.6	100.2	103.5	
不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	-29.4	-29.8	-33.5	-39.9	-30.5	-47.1	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	98.3	97.4	102.4	102.9	97.5	102.2	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$	52.3	53.1	52.2	51.5	54.8	52.9	
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額(H)	-2,540	-2,595	-3,352	-4,300	-2,854	-5,151	
地方財政法上の資金不足の割合 $\frac{(H)}{a} \times 100$	-29.4	-29.8	-33.5	-39.9	-305.0	-47.1	
地方公共団体の財政の健全化に関する法律上の 資金不足比率	-	-	-	-	-	-	
病 床 利 用 率	88.9	84.4	89.9	90.8	88.4	89.1	

## 2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	計画	実績
収 入	1. 企業債	324	1,573	3,822	745	824	808
	2. 他会計出資金						
	3. 他会計負担金	461	397	458	375	385	446
	4. 他会計借入金						
	5. 他会計補助金						
	6. 国(県)補助金	11	14	13	8	6	90
	7. その他		2		1		
	収入計 (a)	796	1,986	4,293	1,129	1,215	1,344
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)						
	前年度許可債で当年度借入分 (c)						
純計(a)-{(b)+(c)} (A)	796	1,986	4,293	1,129	1,215	1,344	
支 出	1. 建設改良費	353	537	507	635	860	882
	2. 企業債償還金	1,196	2,090	4,532	1,081	1,064	1,095
	3. 他会計長期借入金返還金						
	4. その他	198	188	44	237	30	40
	支出計 (B)	1,747	2,815	5,083	1,953	1,954	2,017
差引不足額 (B)-(A) (C)	951	829	790	824	739	673	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	950	828	789	823	738	672
	2. 利益剰余金処分額						
	3. 繰越工事資金						
	4. その他	1	1	1	1	1	1
	計 (D)	951	829	790	824	739	673
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)							
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	0	

## 3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	計画	実績
収益的収支	( ) 912,450	( ) 1,073,654	( ) 967,246	( ) 865,802	( ) 951,227	( ) 854,919
資本的収支	( ) 461,350	( ) 396,909	( ) 457,431	( ) 374,943	( ) 385,343	( ) 446,182
合計	( ) 1,373,800	( ) 1,470,563	( ) 1,424,677	( ) 1,240,745	( ) 1,336,570	( ) 1,301,101

(注)

( )内はうち基準外繰入金額

- この計画は市立病院の経営に関するもので、附帯事業の介護老人保健施設を含みません。
- 平成19年度及び平成22年度の特別損失は、旧高松分院の資産除却によるものです。